

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

野田市(野田市スポーツ公園)で

EMによる放射能除染の

実証試験はじまる。

4月から



関係者の視察と案内する市職員

EM技術による放射能対策が極めて有効であることが、実証されてきています。ベラルーシの子供たちの内部被曝が改善されたこと、飯館村のブルーベリー畑の汚染土壌が4分の1に減少したこと、伊達市など多くのEM農家で汚染された土壌で収穫された農産物のセシウムが不検出であったことなどからも明らかです。



野田市スポーツ公園の除染区域

授による「究極の放射能対策」と称する講演をきっかけに、取手市に市管轄の校庭か公園で放射能除染の実証試験を行いたいことを申し入れしておりましたが、残念なことに実現しませんでした。その後、公的な場所でも実証試験を行う場所を模索して

野田市スポーツ公園の除染区域は約1500㎡の広さです。予定で毎週月曜日に光合成細菌を添加したEMを散布する計画で、4月9日を開始日として除染を始めています。スポーツ公園をA B C D 4つの区域に分けて、AとCを除染区域(約800㎡)、BとDを非除染区域としており、それぞれに4カ所合計16カ所の観測地点を設けています。野田市には、幸いなことに会員の村上さん(関東企画)がおられますので、毎回協力をいただきなから除染を進めています。



EMの撒布

この放射能除染実証試験にはEM研究機構および地球環境・共生ネットワーク(通称:Uーネット)が全面的に指導・協力していただけることにもなっていますので、必ずやきちんと成果を出さなくてはなりません。

いたところ、この4月から野田市「野田市スポーツ公園」で放射能実証試験が実現する運びになりました。



会場の様子

「善循環の輪千葉北部の集い in 印西」
「花のまちづくりセミナー in 印西」
三月二十五日・東京電機大学福田ホール
印西市で開催された同集いは、Uーネット千葉の担当で村上さん等が運営委員として企画・運営されましたが、村上さんはNPO緑の会会員でもあることから、緑の会からも数名が実行委員に加わり、お手伝いをしました。会場が大きいため、当初は集客を心配する声もありましたが、関係者の努力で500名ほどの参加者があり、大変盛況でありました。

このためNPO緑の会は、昨年10月に日立市で比嘉教授による「究極の放射能対策」と称する講演をきっかけに、取手市に市管轄の校庭か公園で放射能除染の実証試験を行いたいことを申し入れしておりましたが、残念なことに実現しませんでした。その後、公的な場所でも実証試験を行う場所を模索して



辛嶋典子さん

コンクール団体部門で国土交通大臣賞を受賞した「夢いっぱい」の町真砂花壇作りの会2代表辛嶋典子さんから



手がけられた花壇

「EM最新情報」

比嘉照夫教授

第2部、比嘉教授の講演は「EMの多様な機能性」についての話から始まりました。



比嘉照夫教授

EMの中心的役割を果たしている光合成細菌、乳酸菌、酵母の3種がPH3.5以下で安定的な共生関係をつくること、自然界の有用な微生物も同調し、機能するようになり、有害な微生物は活動できない状態になり、化学物質や農薬を使わなくても作物の多収、高品質、連作が可能になり、限界突破現象が現れること。そして、EMが農業分野の活用が始まり、水質浄化、水産養殖、環境浄化に至るまで活用されていること。更には今回の東日本大震災における、環境浄化、農業分野での塩害対策から放射能対策まで多くの事例を交えてEMがいかに有効であるかと云う講演を熱く語っていただきました。

「日本医療の現状と予防医学」

杉本一朗先生

杉本先生は、インフルエンザ・ワクチンの功罪の話から科学者と製薬会社の関係、日



杉本一朗先生

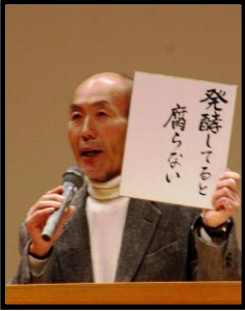
本ではCTやMRIを世界の中でダントツに保有している体制の国であるにもかかわらず、男性の2人に1人、女性の3人に1人は生涯のうち癌と診断され、国民の3人に1人以上は癌で亡くなることの問題点、世界一の長寿国と云われる影の側面、電磁波・携帯電話の問題点など私たちが知らない、知らされていないことが数多くあること、更には放射能汚染とどう向き合っていけば良いのかなど、知らされていない情報を交えての有益な講演でした。

事例発表

自然酒蔵元「寺田本家」

当主 寺田啓佐様

私たちが生きとし生ける者は全て微生物によって生かされている。今、世間では滅菌、



寺田啓佐氏

抗菌、殺菌等、微生物を除外する動きが常識みたいになっっているが、自殺行為に外な

らない。酒造りを通して、微生物による発酵の素晴らしさを語っていただきました。微生物は自然の摂理に決して逆らったりはしない。だから争うことも比べることもなく、お互い助け合いながら今を生きている。自然に沿い、自然の流れに任せば、内なる力を呼び覚まし、発酵してくれる。と。寺田氏は、最近体調をくずし、数日食事をとっていないとのことでありましたが、自分の体験から来る思いを、切々と訴えておられるかのようでした。

有関東企画

代表取締役 村上奈美様

村上さんの会社が、EMを使い始めたのは、担当している野田病院浄化槽の消臭に取り組んだことが、きっかけでした。



村上奈美さん

浄化槽や各排水口にEMを投入することで、消臭に成功し、今日では施設管理や日常の清掃、生ごみ堆肥化、廃油を使用した石鹸作りにも取り組んでいて、今日では、EMが業務遂行になくてはならない存在とのこと。そんな様子をスライドを効果的に交えて実に要領よく説明していただきました。

（株）EM生活、比嘉社長来訪

4月9日、EMを活用した商品やサービスの提供と様々な社会貢献活動を展開している、（株）EM生活の比嘉 新社長が、担当の水野社員と堆肥場に来訪されました。当日は私たちの作業日で、大勢の仲間がEM団子を作っている最中のことでした。



前列右から3人目比嘉 新社長、2人目水野社員

大塚菜園を（株）EM生活が取材



大塚さん取材中の左から高見さん、葛山さん

私たちの仲間、大塚さんの家庭菜園を4月27日（株）EM生活のPR誌「健康生活宣言」の取材のため、同社の葛山さんと高見さんが訪れました。生憎の小雨の中でありましたが、大塚さんの案内で熱心に取材をしておりました。次号を楽しみにしたいと思います。

編集後記

本文中の寺田啓佐さんが、4月18日にご逝去されました。体調を崩しておられながら、気丈に「集い」で講演された訴えが私たちへの最後の警鐘となりました。「自分らしく、心地よく、仲良く」生きることが微生物の有るがままの姿であり自然に寄りそうとはまさにそう生きることだ。と常々話しておられたそうです。誠に残念です。合掌 K F